

能登町文化財レスキュー^{ニュース}-News

第14号 発行日：令和6年12月2日 編集・発行：能登町教育委員会事務局文化財係

「文化財レスキュー」とは??

地震などで被災した家屋などから、古文書や美術工芸品などの歴史・文化的な資料を救出し、安全な場所に一時保管するものです。能登町では元旦の震災を受け、国の機関である文化財防災センターや、民間団体と協力して救出作業にあたっています。救出後には、資料を町で一時的に仮保管し（保管期間を限定します）、今後の取り扱いについて所有者と協議します。

被災した仏像の応急処置活動



仏像応急処置の様子

能登半島地震では、町内の神社や寺院も多く被災しています。建物や周辺敷地の被害も大きいのですが、安置されていた仏像や神像などが倒れて破損してしまいました。このまま放置しておけば、壊れてバラバラになった部材が散り散りとなり、元の状態に戻せなくなることも考えられました。

町では文化財防災センターや有識者と連携し、本格的な修復ではないものの、バラバラになった部材をつなぎ合わせ、像が立っていられる状態にまで応急処置をおこなう文化財レスキュー活動を今年度から実施しています。

11月23日からは、仏像文化財修復工房（新潟県田上町）の松岡誠一さんが今回で3回目となる町内での応急処置活動のため、寺院などを訪問されました。



弘法大師像が安置されていた厨子を地域の方々と補修



震災で倒れてしまった観音像（右下写真手前）を立ち姿へ（左写真）



江戸時代に造られた四天王像は江戸の町人が資金援助をしたことが記載されていた

応急処置が必要な仏像の状態を一点一点確認し、ホコリなどの汚れを落としながら、外れてしまった腕や脚、壊れてしまった台座などを丁寧に接着していきました。

応急処置活動の中では、これまで知られていなかった平安時代や鎌倉時代に造られた仏像も多く見つかっており、奥能登には古くから仏教信仰の活動拠点が形成されていたことがうかがえます。

本紙は町 HP からも見ることができます

https://www.town.noto.lg.jp/www/info/detail.jsp?common_id=20872

